



# 工高タイムス

北海道旭川工業  
高等学校新聞局  
〒078-8804  
北海道旭川市緑が丘  
東4条1丁目1-1  
発行人(局長)  
村岡 良祐  
(工業化学科3年)

## 生徒会役員紹介

# 生徒全員が仲間 楽しい学校を作る

生徒会役員認証式が10月22日に行なわれ、不在の中島泰彰校長先生に代わり三本木豊教頭先生から13人の新役員に認証状が渡された。新役員の意気込みを紹介する。

### 生徒会長

澤田宙陽君(電2)



座右の銘は「仲間」。旭工に同じく通う仲間の一人ひとりが旭工生としての自覚を持ち切磋琢磨していきたいから。一人でできないことも仲間がいれば乗り越えられると信じている。前生徒会役員を経験して「仲間」という文字が一

### 副会長

谷藍衣さん(化2)



「治覧深識」の意味は体験して得た経験や知識が多くあり、様々なことを知っていること。「治覧」は色々なことを見ること。「深識」は様々

### 書記長

佐藤拓海君(化2)



これまで監査副委員長をしていたこと、さらに旭工の役に立ちたいと思ったので立候補することを深く知っていること。

私は生徒会役員として様々なことを経験して深く知り、その経験を生かせるようにという意味でこの文字を選んだ。

多くの人に意見を聞き、たくさんの行事を経験し、様々なことに対応できる人になりたい。生徒会役員として、この学校に通って少しくても楽しいと思えるような学校づくりをしたい。

趣味は紅茶を飲みながら好きなことをすることや読書、絵を描くこと、動画鑑賞。

### 書記次長

浪岡凌玖君(土1)



生徒会役員の活動を通して自分自身の精神力や判断力、コミュニケーション能力を成長させたい。

座右の銘は「信念」で、何かをやるためには自分の思いや考えが必要で、一つの事に全力で取り組みたいから。誰かの役に立つことをやり遂げたい。そのために自分の最善を尽くす。

趣味は絵を描くこと。

### 会計長

盛永優仁君(建2)



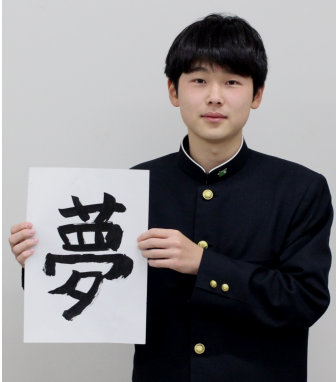
座右の銘は「挑」。この言葉にした理由は、生徒会役員として何事にも挑戦していきたいと考えているから。

今回、初めて生徒会役員として活動するので、旭工生皆の役に立てるよう、最後までやり遂げたいという思いを持っている。特に、学校行事の運営や企画に意欲的に取り組みたい。

趣味はソフトテニス。

### 会計次長

島田大輝君(建1)



「夢」と書いたのはこれからよりよい生徒会にする夢を叶えたいから。

やってみたいことは、夏季のジャージ登校を実現させること。

学校を良くするために最後まで生徒会の仕事にしっかりと取り組んで、信頼される人になれるように責任を持ってやり遂げたい。

趣味はソフトテニス。



現在持っている資格を生かす機会が先日訪れた。自宅の照明を交換したときだ。一か月前から点滅するようになり、半分の蛍光灯が点灯しなくなっていた。20年前のものだった。いざ交換しようとするのと取り外しはできたもののホコリが大量にかぶっていてアレルギの私はしばらく咳が止まらなかった▼その後、交換のため接続場所を見てもと今販売している照明に対応していないことが分かった。照明を設置するには天井の電源取り出し口を角型引掛けシーリングに交換しないといけない。しかし、引掛けシーリングに交換するには電気工事士の資格が必要となる。電気工事士法により無資格者が引掛けシーリングを交換すると法律違反になってしまうのだ。私は第二種電気工事士の資格を持っているため交換することができた。また、第一種電気工事士の実技試験に向けて工事の練習もしていたので、この経験が生かされた▼工事ではブリーダーを切って行なった。試験と違い、上を向いて交換するので手と首がとても疲れた。交換の作業の際に、交換前のシーリング部分の銅線が露出していて感電の危険があった。本来は外から線が見えてはならないものだ▼交換工事は照明を除き接続部分の材料費だけで1000円ほどだった。他人の家の工事にはまた別の資格がいるが、自宅は工事ができる。皆も第二種電気工事士の資格を取ってはいかがだろうか。(電2稲留)

## リーダー会 研修

# 旭商と合同で実施 互いに補い合う

リーダー研修会が11月8日に旭川商業高校視聴覚室で旭工と旭商の生徒会役員が合同で行なわれ、「リーダーの資質」と「理想の生徒会」について討議をした。

会長の澤田宙陽君(電2)は「旭商も旭工も同じ職業高校なので、それぞれの強みを

生かした、行事について話したり、学校をより良くするためにしていることや、案を互いに考えた。議題について長時間かけて話し合い、新しい視点から考えることができた。

生徒からでた意見をいかに効率よく取り入れるか、公平にするために、少数意見も取り

入れているなど、旭工ではまだ足りなかった部分や旭商で



足りなかった部分を互いに補い合えたことがプラスになった。とても有意義なリーダー研修会にすることができ、これからの生徒会活動で旭商のように細かな所にも目を配って一つ一つ確実に改善していきたい。また、今回のメインである、リーダーとは何なのかについて交流して学んだことを忘れることなく、理想の生徒会を現実の生徒会に変えられるように尽力していく」と話した。



生徒会  
役員紹介

# 旭工をより良くする 生徒の悩みに寄り添う

表面に引き続き、新生徒会役員7人の意気込みを紹介する。各役員は旭工生のために学校をより良くするために積極的に活動しようと考えている。

## 生徒会誌

### 編集委員長

今西孝太君(電1)



旭工生をまとめたい、より良い学校生活にしたいと思い立候補した。

「過程」と書いたのは生徒会の仕事は、行事を成功させたり、学校をより良くしたりすることだが、その結果よりもそこに至る過程が大きな意味があると考えたから。

全員が過ごしやすい学校にしたい。そのために、大勢の

## 体育委員長

田中陽斗君(建1)



旭工の一員として旭工生と先生方のために何か役に立てないかと思い立候補した。「仁」と書いたのは思いやりを大切にしたい、気遣う気持ちがあれば人との関係に発展しないから。

生徒の意見を取り入れたい。生徒会役員で丸となって頑張る。人から見られてなくても陰で学校を支える人になりたい。

趣味はアニメ鑑賞。

これまで生徒会で積み重ねてきたことを引き継ぎ、新しいことで良いことがあれば取り入れたい。

楽しむときにはとことん楽しんで、きちんと取り組むときは生徒の声を率先して聞いて学校をより良くしたい。趣味は睡眠。

## 行事委員長



下村夏輝君(建2)

SNSの運営を行ったり、生徒会だよりに活動内容を記載するなど、旭工生に生徒会の活動が分かるようにしたいと思い立候補した。

座右の銘は「やると決めたならやりきる」。やると決めた

## 議会議長

細川大翔君(土2)

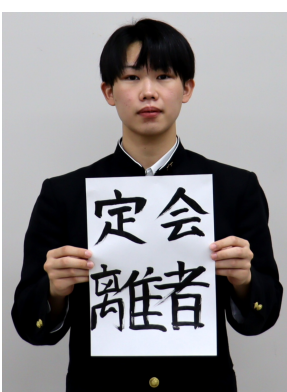


て生活したい。生徒会では行事の際に生徒をまとめて、進歩をスムーズにしたい。シャーシ登校をはじめ、工高祭や旭工オリンピックの実況、全校集会の司会を務めたいと思っている。

趣味はバドミントン。

## 議会副議長

矢三竜乃進君(電2)



座右の銘は「会者定離」。会う人は必ず離れるという言葉にはこれまで転校などによって友人との別れを経験してきた。

て、少しでも行動に移したら最後までやりきるという意味で決めた。

前年度と同じく、自分のできることをしっかり行ない、できないことも周りと助け合いながら自分にできることを増やせるように活動する。趣味は卓球とゲーム、勉強。

## 監査委員長

架田祥喜君(情2)



自身の思いが重なっている。そのため、出会った人に真剣に向き合い、すべての出会いを大切にしたいと考えている。取り組みたいことは生徒の悩みに匿名で寄り添える相談

の窓口を作ること。相手と同じ立場で物事を見ることが出来る点を活かし、悩みの解決に繋がるような環境づくりに挑戦したい。趣味は音楽鑑賞とベース。

## 監査副委員長

越智勇太君(土2)



昨年生徒会役員として活動した経験から今年も立候補し

座右の銘は「尽力」。この

一年間ですべての力を尽くしたいと考えている。会長・副会長の下で支える存在になりたいという思いが強く、生徒会の代表として誰に見られても恥ずかしくないよう取り組んでいく。

また、役割に限らず行事の運営にも携わるため、円滑に運営できるよう努めたいと考えている。

趣味は推理小説を読むこと。

た。また澤田君が会長に立候補したことも理由の一つだ。「本気」という文字には今まで3年生に頼る場面が多かったが、今回からは自分たち2年生が引っ張っていく役割だからだ。

今年は生徒が居心地の良い学校生活ができる環境を作りたい。そのうえで夏季にシャーシ登校をできるよう活動するつもりだ。

趣味は友人とのスポーツ。

## 特集 戦後80年⑦

# 世界の平和を願う 過去の失敗を繰り返さない

前号からの続き。

## 隣の人間と争う地獄

工業化学科1年 近藤折海

飽食と言われる時代を生きているため腹が減ることの苦しみを正

直、私は知らなかった。

しかし80年前、理不尽にも極寒の大地に残されることになった兵士の方の様子から「腹が減って仕方がない」と言うのは本当に恐ろしく、苦しいことなのだと感じた。

皆、自分の腹を満たすために人からパンを盗んだり、わざと自分の取り分が多くなるように調整したりするのである。きつと彼らも悪人とは限らないと思う。それほどまでに飢えるのが苦しいのである。国が負け、戦争が終わっても、その後には劣悪な環境下で、国のためではなく自分のために敵兵ではなく隣の人間と争う地獄があったのである。

## 平和な生活の大切さ

建築科1年 坂本かがり

戦後80年が過ぎて、私たちの暮らしは大きく変わった。当時の人々の努力が今の平和で豊かな社会を築き上げたと思うと、その努力に深い敬意を抱く。

しかし、戦争を直接知る世代は年々少なくなり、平和な今の生活

## 戦争は何も生まない

土木科1年 三上海斗

特集「戦後80年」を読んで、まず最初に思ったことは「やはり

戦争は何も生まない」ということだ。理由は食料はどんどんなくなるため食事は質素になり、餓死する人も出てくるし、戦闘に集中しているせいで排泄することも忘れてしまうなど、人間として当たり前のことができなくなってしまうと思ったからだ。

今後、このような惨劇が起らないように二度と戦争は起こらないでほしい。世界が平和なことを願っている。

(終わり)